資料 3

行政訴訟について

福井秀夫

1　行政訴訟の原告・被告格差

- 時間・予算・人力
- 実体法の構造
- 印紙代・弁護士費用負担

2　裁判所の専門性向上

- 裁判官の能力・経験・証拠調べと争点
- 行政裁判所

3　民事訴訟との整合性確保

- 「権利侵害性」の下の平等
- 目的における連続性
- 無名抗告訴訟拡充 ― 民事訴訟への接近

4　訴えの利益

(1)　原告適格

- 「権利侵害性」基準 ― 主観訴訟の限界
- 民事との公平
- 「却下」から「棄却」への移行に意味なし

(2)　処分性

- 段階的決定の先行行為の位置付け ― 訴訟対象への移行＋違法性の承継の遮断
- 訴えの成熟性の基準化
- 訴訟類型の柔軟化

5　裁量統制

- 実体法の不確定概念の客観化
- 「行政」から「司法」への代替は危険
- 費用便益分析基準

6　国民訴訟

- 裁判所による適法性コントロール
- 住民訴訟改善